

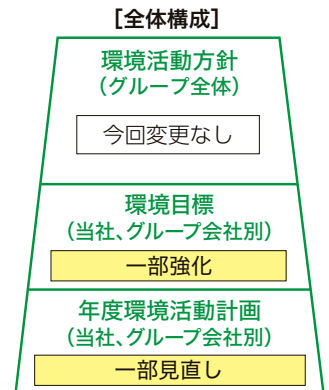
IV

2014年度の実績を踏まえた今後の取組み (2015年度九州電力グループ環境アクションプラン)

2015年度九州電力グループ環境アクションプランについては、九州電力グループ中期経営方針(平成27～31年度)や、本レポートで紹介した活動実績(P11～P46)及び社外からの評価結果(P47～P50)などを踏まえ、見直しを行いました。

具体的には、環境目標の達成が継続しており、深掘りが可能と判断した項目の目標を強化するとともに、再生可能エネルギーの導入に係る課題解決に向けた取組みなどの新たな活動を織り込んでいます。

2015年度も引き続き持続可能な社会に貢献していくために、この環境アクションプランに基づく活動の着実な実施により、九州電力グループ一体となって事業活動と環境を両立する「環境経営」を推進していきます。



■ 環境目標を強化した項目

● 過年度実績を踏まえ、目標を強化して取り組む項目

	単位	2015年度目標	前年度目標(実績)
当 社	百万kWh	55以下 ^{※1}	58以下(55)
	トン	470以下 ^{※2}	490以下(447)
	m ³ /人	24以下 ^{※2}	32以下(24)

※1：前年度実績値以下を目標として設定
※2：過去3か年実績の平均値を目標に設定

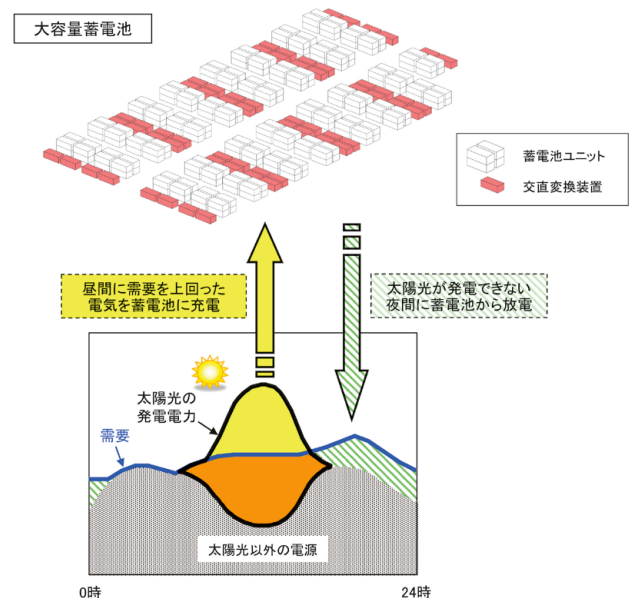
グループ会社	単位	2015年度目標	前年度目標(実績)
	kWh/m ²	95程度 ^{※2}	100程度(90.1)
	m ³ /人	14以下 ^{※2}	16以下(13.1)
	%	95以上 ^{※2}	90以上(96)
	%	86程度 ^{※2}	80程度(87)

■ 新たに織り込んだ主な活動

● バランスのとれた再生可能エネルギーの積極的な開発と最大限の導入

グループ大で地熱・水力等の新規開発候補地点の調査・検討を行うとともに、再生可能エネルギーの受入量拡大に向けた蓄電システムの活用等を検討します。

蓄電池による需給バランス改善実証事業(実証イメージ)



【大容量蓄電システム需給バランス改善実証事業】

豊前発電所構内(福岡県豊前市)に出力5万kW(容量30万kWh程度)の大容量蓄電池を電力系統に接続し、揚水発電と同等の電力貯蔵機能を活用した需給バランスの改善に関する実証試験を実施します。

また、大容量蓄電池の有効活用策として、系統電圧制御への適用に関する実証試験も実施します(※実施期間:2015年度～2016年度(予定))。

更に、再生可能エネルギーを最大限受入れながら、九州本土の需要と供給のバランスを確保するため、需要予測と発電予測を踏まえた、きめ細かな太陽光発電の出力制御が可能なシステムの開発を目指し、実運用に向けた技術確立等を実証する「次世代双方向通信出力制御緊急実証事業」を行います。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報 (P2参照) > 大容量蓄電システム需給バランス改善実証事業の実施について

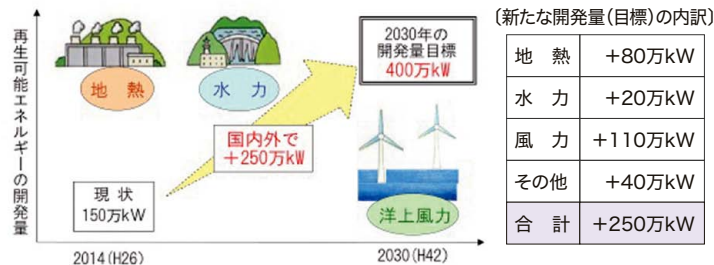
> 次世代双方向通信出力制御緊急実証事業
(平成26年度補正予算再生可能エネルギー接続保留緊急対応補助金)の実施について

- >>再生可能エネルギー
- >>リサイクル率
- >>蓄電池
- >>上水
- >>系統
- >>エネルギーミックス
- >>産業廃棄物
- >>揚水(発電)
- >>絶滅危惧種

用語集をご覧ください

[再生可能エネルギーの開発量(目標)]

当社は、2030年までに、九電グループとして地熱や水力を中心に、国内外で新たに250万kWの再生可能エネルギー電源の開発を目指すこととしています。



● 国が示すエネルギーミックス等を踏まえた新たなCO₂排出目標の検討

電気事業連合会では、国が策定を進めているエネルギーミックスを踏まえた電気事業全体でのCO₂排出抑制目標の策定について、新電力と共同で検討を進めており、当社も、この検討に積極的に参画しています。

当社は、安全の確保を大前提とした原子力発電の活用や、再生可能エネルギーの開発・導入、火力発電所の熱効率維持・向上、省エネの推進等により、この新たな目標の達成に向け、最大限努力していきます。

【参考】国が示す2030年のエネルギーミックス案 (％程度)

電源種別	2030年の電源構成比
再生可能エネルギー	22～24 (水力 8.8～9.2 太陽光 7.0 風力 1.7 バイオマス 3.7～4.6 地熱 1.0～1.1)
原子力	22～20
LNG火力	27
石炭火力	26
石油火力	3

出典：資源エネルギー調査会長期エネルギー需給見通し委員会(第8回会合)資料より抜粋

● 地域ニーズに沿った当社の柱となる環境活動の展開

くじゅう坊ガツル湿原一帯の貴重な自然環境を保全し、体験いただく活動を展開します。

[次世代層を対象とした環境教育]

2014年度の検討結果を踏まえ、坊ガツル湿原の貴重な自然環境を多くの方に体験していただくために、お子さまが、希少な植物や昆虫、動物などを見て、理解して、自分の記録として残すことをコンセプトとした自然観察会などの環境教育を実施します。



[ミヤマキリシマ植生保護・登山道整備]

2014年度の実施結果を踏まえ、平治岳^{ひいじ}のミヤマキリシマ(大分県準絶滅危惧種)の植生保護活動を、環境省の指導の下、社内及び地元関係団体と協働で、ボランティアを募り実施します。また、あわせて登山道の安全確保のため、階段の設置などの整備活動も行っています。



☆環境アクションプランの概要につきましては、当社ホームページ「環境への取組み」内に掲載しております。
(以下のURLをクリック)
http://www.kyuden.co.jp/environment_plan_index.html